

課題名	キウイフルーツの花腐れ症(仮称)及び奇形果の発生と分離細菌							
成果の要約	キウイフルーツの花腐れと奇形果は広範囲に発生し、両者に因果関係がみられる。この症状の花と果実から白色細菌が優占的に分離された。							
成	第1表 花腐れ症、奇形果の発生実態							
	調査地	花腐れ症			奇形果			花腐れ症による落花数
		調査花数	発生花数	発生花率	調査果数	奇形果数	奇形果率	
	諫早市	195	145	74.4%	138	37	26.7%	464
	瑞穂町(A)	164	121	73.8	77	18	23.4	176
	“(B)	217	138	63.6	49	11	22.4	169
	多良見町(A)	258	131	50.8	160	6	3.8	110
	“(B)	247	50	20.2	123	3	2.4	63
	有明町	120	89	74.2	65	17	26.2	156
	琴海町	251	159	63.3	103	22	20.4	174
	佐世保市	254	113	44.5	173	3	1.7	209
	平均	213	118	55.5	111	15	13.2	190
績	第2表 花腐れ症花と奇形果との関係							
	項目	調査果数	落花数	奇形果数	正常果数			
	軽症花	50	38	12	0			
	重症花	50	50	0	0			
	健全花	50	0	0	50			
概	第3表 花腐れ症、奇形果よりの分離菌							
	分離部位	分離菌		分離菌株数	分離率			
	軽症花	白色細菌		31	77.5%			
	重症花	白色細菌		20	50.0			
		Botrytis sp.		13	32.5			
		Sclerotinia sp.		12	30.0			
		Alternaria sp.		4	10.0			
		その他		11	27.5			
	奇形果	白色細菌		35	87.5			
	(果樹試験場)							
留意点	当該細菌による発病再現試験、細菌学的研究による菌の同定、生態及び防除法の確立をまって防除基準化を検討する。							